

大阪市大のヤシの木

写真は朝日新聞 1 月 22 日夕刊。懐かしい市大キャンパスの写真に注目した。記事を抜粋して紹介する。

大阪市立大杉本キャンパスのヤシの木が昨年 6 月、安全のために伐採された。伐採後に卒業生の思い出の深さを知った在学生在が 29 日と 30 日、明かりのもとで思い出を振り返るキャンドルナイトを開く。市大によると、1950 年代後半、キャンパスの正門から 1 号館に向かう広場に卒業記念として、ワシントンヤシの苗木 30 本が植えられた。なぜヤシの木だったかは不明という。64 年入学の市大名誉教授、湯浅勲さん（72）は「当時はまだ 3 歳ほどで、木にもたれて、友達と話をしたのが思い出」と語る。

1 本は早い時期に枯れるなどして撤去されたが、残りの 29 本はぐんぐん伸びた。湯浅さんが教授として再び通うようになった 90 年代には 20 歳ほどになり、登録有形文化財に指定されている 1 号館の時計台とヤシの木の風景は、大学のシンボルとなった。だが、成長につれて風が吹くと揺れるようになり、倒木や、葉を支える柄の部分が落下する危険性が高まったとして昨年 6 月に伐採された。伐採の前後、市大には卒業生らから「寂しい」といった声が寄せられるようになった。

下の写真は 1968 年ごろのヤシの木。これには見覚えがある。1971 年 3 月、信州大をなんとか卒業して、大阪市大の大学院をめざし、不安な思いで大阪にやって来た。大学近くに下宿して、正門近くの図書館の自習室で、朝から晩まで勉強した。ヤシの木の下で休憩したことも。

時計台の本館 2 階の教室で、大学院入試を受験したことは、今でもよく覚えている。1 年目はギリギリのところでも不合格。下宿のおばちゃんと一緒に泣いたことも忘れられない。2 年目に合格でき、1973 年 4 月から経営学研究科の院生となり、宮本憲一先生のゼミで修士論文を書くことになる。じつは浪人時代から、「もぐり」でゼミに参加させてもらっていた。親の反対を押し切って大学院進学をめざしたので、極貧で正規の聴講などできなかった。今でも宮本先生に感謝している。

大学院に入学して、院生自治会の役員になった。ヤシの木あたりに、立て看板を立てたこともあった。当時まだ、暴力を振るう学生集団が学内にいて、ヤシの木の周辺で、あたりを見回しながら集会やデモをやったことも。上の写真のように、最近では立て看板も見あたらないようだ。ヤシの木が伐採された市大キャンパスにまた行ってみよう。

(2018 年 1 月 24 日)

